
宮内家のいちにち。

のわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宮内家のいちいち。

【Nコード】

N2907T

【作者名】

のわ

【あらすじ】

美形な夫と、平凡な妻と、その子供のいちいち。
基本ラブラブいちいちです。
時々、シリアスがくるかもしれません。

一話ごとに完結する予定です。

視点が一話ずつ変わっていきます。

宮内真奈のいちにち（前書き）

設定上、読みづらいかもしれません。

宮内真奈のいちいち

宮内真奈のいちいち

「おかあさん、いってきまーす。」

「いってらっしゃい。きをつけてね、真奈。拓斗さんも気を付けてね。」

そう言っておかあさんはおとうさんとチューをしました。

おとうさんの目がおかあさんと離れたくないっていているみたい。

おとうさんがおかあさんの耳のそばで、なにか言っています。

おかあさんが、たこさんみたいに赤くなりました。

おかあさんはおとうさんといると、とても若いです。

こういうのを「まんねんこいびとぶつぶ」っていうって、ゆかちゃんがいつていました。

はずかしかったのか、おかあさんはおとうさんから無理矢理に離れて、真奈にこう言いました。

「ま、真奈、今日の授業参観は2時間目からいくからね。」

そうです。今日はじゅぎょうさんかんで、おかあさんが学校にきてくれるんです。

おとうさんが、いつもいつもおかあさんのことをかわいいと言っています。

あ、わたしの番が来ました。

作文をよみます。

.....

「わたしのおとうさんとおかあさん

2年3組 宮内真奈

わたしのおとうさんと、おかあさんはラブラブです。

どのくらいらぶらぶかというところ、いつでもいちゃいちゃしている、恋人くらいです。

おとうさんは、よくおかあさんといちゃいちゃしたがりです。

毎日、朝はちゅーからはじまって、夜も、ちゅーでおわります。

真奈にもチューしてくれるけど、ほっぺだけで、口にはしてくれませんが。

前に、口にしようとしたら、おとうさんに、

「ごめんね、口はおかあさんせんようなんだ。」

といわれてしまいました。

ちょっとさびしかったけれど、おとうさんとおかあさんがらぶらぶなのをみていると、

こっちもウキウキするので、いいです。

これからも、おとうさんとおかあさんにはラブラブでいてほしいです。

そしてわたしも、おとうさんとおかあさんのように未来のおとう

と、らぶらぶになりたいです。

読んで、席にすわって、おかあさんをみると、たこさんになっていました。

おとうさんがいたら、きつとかわいいっていっているとおもいます。

「おかあさんとおとうさんがラブラブなのはいいことですね。先生もそんな夫を見つきたいです」

由美子せんせいが、かおをなぜかあかくして、はなしていました。

「おれ、由美子せんせいとケツコンしてやるー」

お調子者のけんちゃんがいました。

けんちゃんは由美子せんせいのことが好きです。

「ありがとう、けんちゃん。わたしもけんちゃんみたいな子と結婚したいわ」

由美子せんせいは笑顔でいっていました。

けんちゃんはうれしそうでした。

じつは、ひそかにけんちゃんのことをきになっています。

けんちゃんは、かっこいいし、スポーツばんのうです。

あたまは、あんまよくないけれど、元気だから、みていて明るくなります。

「けんちゃん、そんなのおせじだよ」

けんちゃんのうれしそうな顔を見て、ちょっとモヤモヤして、いじわるをいってしまいました。

「うるせーよ！おせじってなんだし」

・・・やっぱりけんちゃんはあたまがあんまよくありません。でも、でも、そんなところもかわいいです。

けんちゃんはわたしのことが、あんま好きではなさそうだけど、いつか、けんちゃんのおよめさんになりたいと、おもいました。

おわり。

宮内真奈のいちにち（後書き）

初投稿なのですが、ドキドキしています。

読んでくださった方、ありがとうございます！

宮内美穂の一日。(前書き)

長い気が・・・

宮内美穂の一日。

宮内美穂の一日。

カーテンの隙間から日が差し込み、少し明るくなった部屋で、私は目を覚ましました。

「……ん……」

お腹に回された腕が僅かにきつく締まります。

ふと時計を見ると、……もう7時です!!

は、早く支度をしないといけません!!

「た、拓斗さん、離して!もう起きないと!!」

「ん……まだ、あと少しだけ」

「でも、もう7時だからはや……ちよっ……ん……」

起きようとした私を強引にベッドに引き込み、そのままキスされてしまいました。

甘いムードになりそうですが、ここで流されてはいけません!!

「ダ、ダメ!! 後でにしてください!!」

「ヤダ、今がいい。」

「ね？いいでしょ、ちょっとだけだから。美穂」と、腰にくる美声で囁かれました。

危うく頷きそうになりましたが、それでは支度が出来なくなってしまう。

それに真奈がもうそろそろ起きてくる時間です。

「だ、だめです！！ 後でならなんでもするから離してください！！」

その一言に、首筋に降下していた唇が止まり、そこに吐息がかかるの分かりました。

「なんでもしてくれるんだ・・・？」

し、しまった・・・！！

余計なことを言ってしまったようです。

「い、いや、私ができることだけど・・・」

「ふうん・・・そう」

首筋で密かに笑った気配が感じられます。

こ、これはいけません・・・。なにかいけない空気が漂っているよ
うな気が・・・。

「じゃあ・・・今夜は離さないから」

ひ、ひいいー！！

なんとということでしょう。今日は金曜日ではないですか！！

やってしまったた・・・やってしまったた自分・・・

どうしましょう・・・どうしましょう・・・

いや、嫌ではないですが、嫌ではないですが・・・あんなこと言われたら恥ずかしいに決まっています。

「楽しみにしてるからね。美穂・・・」

そう耳元で囁き、拓斗さんは部屋を出ていきました。

楽しみにしてるって・・・どうすればいいのでしょうか。

私は美人ではないし、いい反応もできている気がしません。

拓斗さんはいつもカワイイと言ってくれますが、

それはきつと子供をみているようなものでしょう。

子供が生まれ、少しは体が女っぽくなりましたが、それでもまだまだ胸も小さいし、腰だつてあまり丸みを帯びてません。

はあ・・・

いけませんね！！すこし落ち込んでしまいました！

こんなじゃ、不細工がもっと不細工になってしまいます！

さて、早く準備しないと！！

部屋を出て、着替え、食事の準備をします。

今年小2になった真奈は、拓斗さん似で、まだ幼いのに、すでに美少女です。

そんな真奈と拓斗さんが話していると、まるで別世界にいるように感じてしまいます。

おかしいですね、わたしが産んだのに。まるで他の家族を見ているように感じてしまいます。

「おかあさん、どうしたの??」

はっ、ぼーっとしてしまいました！

「なんでもないわよ。あ、そういえば、今日は参観日ね」

「うん！今日ね、作文はつぴょうするの」

「へえ！作文かあ・・・何について書いたの？」

「家族だよ」

家族かあ。娘の口からその言葉を聞くと、なんだか不思議な気持ちになります。

「そっかあ。お母さん楽しみにしてるね。」

「うん。おかあさん今日いつくるの??」

「うーんどっしょうかなあ。」

授業参観は、1時間目からみれますが、その前にいろいろとしたいこともあります。

「まあ、来てくれたらそれでいいや。」

おおっと！ずいぶんとそっけないですね。

小2にしてはかなり真奈は大人びている気がします。

私が小さかった頃と大違いです。

大人びていますがやっぱり子供。

食べる速度は、やはり私たちよりも遅いです。当たり前ですよね！

少ししてから真奈が食べ終わりました。

「「「ごちそうさま」「」」

食事はできる限り一緒にとり、一緒にごちそうさまを言うのが我が家のルールです

食事を終え、みんな支度をし、玄関へと向かいます。

「おかあさーん。いつてきまーす」

真奈は元気よく挨拶をしてくれました。

「いつてらっしやい。きをつけてね、真奈。拓斗さんも気を付けて」

朝のことがあったので、少し恥ずかしかったのですが、この一言を言わないと気がすみません。

案の定、拓斗さんにキスされてしまいました！ 子供がいるのに・・・
。容赦がありません

ふと拓斗さんが耳元で囁きました。

「今夜は本当に覚悟しといてね」

な、何てことを言うのでしょー！

おかげで顔がまっかかです！

っは、そういえば、真奈に伝えておこうと思っていたことがありました。

「ま、真奈、今日の授業参観は2時間目からいくからね。」

よし、これでも言いたいことも言えたし、拓斗さんとも離れられました！

ふたりにいつてらっしやいを言って、

ひとり残った私は食器を洗って、洗濯物を干します。

一度は着替えましたが、やはり授業参観にちよっと着飾ろうと思い、昔プレゼントしてくれた服を着てみました。少スキつかったですけど何か入ります。

化粧をし終わって時計を見ると、もう2時間目に突入しそうな時間です！

は、早くしないと！！

慌てて支度をし、学校へと行きます。

すると、もう2時間目が始まっており、クラスの子が作文を読んでいます。

その子が読み終わると、次は真奈の番でした。

はたして、何について読んでくれるのでしょうか。

ワクワクします。

真奈が席を立ちます。

「わたしのおとうさんとおかあさん 2年3組宮内真奈。

わたしのおとうさんとおかあさんはラブラブです。どのくらい・

・・・」

・・・なんという作文なのでしょう。かなり恥ずかしいです。
・！・！

今日は恥ずかしくなる日なのでしょうが？いや、そんなわけないですよね。

とにかく、本日3回目の赤面タイムがきたのは確実です。

しかし、恵まれているなあ、と思います。

こんなに夫や娘から愛されているなんて。ほんと幸せです

いつ、この幸せが手元からなくなってしまつのかはわかりませんが、それでも、今この瞬間は幸せを噛みしめていたいと思いました。

ふたりとも・・・だいすきだよ！

おわり。 (な、ながい・・・)

宮内美穂の一日。(後書き)

長いですかね?? よかったら、感想まっております!

そしてそして・・・

この稚拙な文を読んでくださった方々、ありがとうございます!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2907t/>

宮内家のいちにち。

2011年5月18日12時46分発行